

第1627号 2023年1月1日

☆帝国主義国、植民地従属国、「労働者国家」の階級闘争を
世界プロ独一世界共産主義の勝利へ！
共産主義者同盟（統一委員会）

戦旗

発行所 戦旗社

編集発行人 鹿島 昂

東京都足立区綾瀬7-2-11

電話 03 (6876) 6136

郵便振替 00180-4-176133

http://www.bund21.org

今号8頁 300円

年間購読料(送料共)

開封6,300円 密封7,000円

1～4面：新年号第一論文（情勢）

5面：2023年 共闘団体からのアピール

6面：2022岩国行動報告

今号の内容

プロレタリア国際主義貫き 戦争と排外主義を打ち破れ



「市東さんを守って未来を切り拓く闘い」であると表明し、天神峰決戦への参加を全国に呼びかけた（12月11日 三里塚・団結芋煮会）

市東さんの農地守り抜く 天神峰決戦に勝利しよう

二〇二〇年から続く新型コロナウイルスの世界的蔓延と、昨年二月二十四日に開始されたロシアのウクライナ軍事侵攻は、「新自由主義グローバリゼーション」の時代に代わり、「分断と対立」の新たな時代の流れを一段と加速させた。
米帝・バイデン政権は昨年一〇月、新たな「国家安全保障戦略」を公表し、「冷戦終結後の時代が決定的に終わった」と宣言した。日帝・ブルジョアジーもまた、二二年四月に発表した提言において、「グローバル化と自由主義経済を謳歌する時代は終わりを迎えた」（経済同友会「強靱な経済安全保障の確立に向けて」）との時代認識を示した。
ブルジョア支配階級の側から、「冷戦終結後の時代」、あるいは「新自由主義グローバリゼーション」の終焉が宣言された現在、その後の世界支配秩序構築をめぐる、帝国主義諸国と中国、ロシアなど諸大國間の「分断と対立」が、戦争にも至る事態となつて激化している。
「分断と対立」の先鋭化は、それぞれの国家が「国益」を全面的に主張するものであるがゆえに、敵対国への差別排外主義煽動や、それと表裏一体のナショナリズムによる国民統合をも必然的に激化させていく。世界的に同時進行する極右ファシスト勢力の伸長、ヘイトクライムの続発は、その表れである。
帝国主義諸国が押し付ける新たな世界秩序再編の構想は、この間蓄積されてきた矛盾の先送りにしか過ぎない。また、それらの矛盾を「このままでは生きられない」という極限的レベルまで労働者人民に押し付けようとするものだ。ゆえに、世界各国・地域でブルジョア支配階級に対する労働者階級人民の抵抗闘争を激化させている。
コロナ禍や、新自由主義グローバリゼーションの終焉という時代状況の中に、現代資本主義そのものの歴史的限界がはつきりとあらわれている。
今こそわれわれとともに労働者階級人民の怒りの奔流を創り出し、帝国主義を打倒していこう。
共産主義者同盟（統一委員会）は、今号（一月一日）と次号（二月二〇日）において二〇二三年年頭の見解を明らかにしていく。『戦旗』今号では「情勢」を、次号では「総括、方針、党建設」を提起していく。

世界情勢

ウクライナ侵略戦争と

分断と対立の激化

昨年二月二十四日、ロシア大統領プーチンは、「ネオナチから親ロシア系住民を守る」を名目とした全面的な侵略戦争であったことは明らかである。口実によつて、ウクライナへの「特別軍事作戦」を開始した。だが、ロシア軍の攻撃はウクライナ全土に及んでおり、首都キーウの一九九〇年を前後する東

欧・ソ連のスターリン主義政権崩壊以降、バルト三国をはじめ、ジョージア（旧グルジア）など旧ソ連邦を構成していた国々が相次いで独立し、その多くが親欧米政権となった。ウクライナもまた、親ロシア派が「ユーロマイダン革命」で敗北し、その後EU、NATO加盟を主張する親欧米派のゼレンスキーが大統領に就任した。この一連の政変は「カラー革命」といわれているが、これには米帝による巨額の資金援助・介入が行われている。
この旧ソ連邦構成国家の政変をロシアの政治エリート側から見れば、欧米帝国主義覇権の東方への拡

大ということになる。さらに「カラー革命」の波はロシアと国境を接する諸國を越え、ロシア国内にまで波及しつつあった。ロシアの覇権復権を企図するプーチンからすれば、これはNATOの東方拡大、ロシア攻囲であり、ロシア国内への「カラー革命」の波及は、自らの権力基盤を解体するものであり、断じて許しがたい事態ということになる。
だが、プーチンがこの戦争の正当性をいくら主張しようとも、その本質は、大ロシア主義に基づくウクライナ全土の侵略・併合であることは明白だ。かつてのソ連邦構成国家だからといって、独立した国家への侵略戦争が正当化できるはずがない。

戦争は長期化している。ウクライナの反転攻勢やパルチザン戦争は継続している。一〇月下旬にロシア軍兵士三〇万人の追加招集がなされたことから、ロシア軍の苦戦とウクライナ軍の反転攻勢、およびロシア支配地域の奪還は事実である。これは侵略に対するウクライナ人民の頑強な抵抗闘争の結果であることは確かだ。だが一方で、ウクライナ側の巻き返しが、米帝やNATO諸國などからの巨額の軍事援助に支えられて

これまでも、米帝だけでも一八九億ドル（約二兆七五〇〇億円）もの巨額の軍事支援をウクライナに供与してきた。これらは戦争が長引くほどに軍事援助を行う各国の軍産複合体に利益をもたらす。「死の商人」としての軍需産業が空前の好景気に沸く中で、戦場においては、「死の商人」が提供した兵器によってウクライナ、ロシア双方の兵士が殺し殺され続けている。この残酷な現実を忘れてはならない。

苦戦を強いられるプーチン政権は昨年一〇月二六日、侵攻後では初の核戦力演習を実施し、核兵器使用の威嚇を行った。また、ロシア軍はミサイルや自爆型ドローンを使ったウクライナ全土の発電所などインフラ施設への無差別攻撃を繰り返している。
ロシア軍は兵士の追加招集対象を予備役のみならず、重大刑法犯にまで拡大した。だが、これらは逆に兵士の士気を一段と低下させ、ロシア国内の厭戦気分

の拡大、反戦運動の再度の高揚を結果している。戦争の長期化は、ロシアの経済的な疲弊とプーチン独裁政治への反発をもたらし、やがてはプーチン政権の権力基盤を揺り崩していくことになるだろう。
肥沃な農耕地帯であったウクライナの大地は戦場となり荒廃した。ロシア軍の黒海封鎖により、穀物などの輸出入は制限されている。さらに米欧日帝国主義諸國による強力な経済制裁も加わり、世界各国で食料・エネルギー価格が高騰し、労働者人民の生活を圧迫している。アフリカや中東諸國の貧困にあえぐ人民の食糧危機はより深刻なも

二面へつづく

一面から

労働者人民の困窮化を促進している。
全世界の労働者人民ととも、ウクライナ侵略戦争の犠牲者となる約46%のロシア軍の即時撤退を求め、食料品などが高騰し、

米帝の衰退と
新たな覇権争闘

ウクライナ侵略戦争は、改憲と大軍拡へと突き進み米帝を中心とする帝国主義諸国が主導してきた世界支配体制の崩壊と、それに代わる世界の分断と対立を基調とする新たな時代の到来を示した。

米帝は、一九七一年の金・ドル兌換停止（ブレトン・ウッズ体制の崩壊）、七四―七五年恐慌を期として中心国としての力の衰退と、同時期のベトナム民族解放戦争の勝利（米帝の敗北）によって、米帝単独での覇権（世界の覇権）を維持できなくなった。これを受けて、七五年からは先進国首脳会議（サミット）が開かれ、帝国主義列強間の政治的・経済的諸問題への共同対処を意思統一する場を形成していくことになった。

中国の台頭

一方、九〇年代以降、新自由主義グローバル化（新自由主義）の下で、「改革開放路線」の下に「社会主義市場経済」へと転換した中国は、一四億人という膨大な人口と低賃金労働者の存在、広大な国土面積、中国共産党の一党独裁（スターリン主義的官僚体制）などを条件に、帝国主義資本を積極的に呼びこみ急速に工業化を果たした。国家独占資本主義化を推し進め、「世界の工場」と形容されるまでに生産力を飛躍的に増大させた。この急成長を背景に、中国は政治的・経済的影響力を拡大させたのだった。それは現在、米帝の覇権維持・強化のために、積極的に日米軍事一体化を推し進め、「一帯一路」構想など、世界の覇権確立をも視野に入

る。米帝にとって唯一最大の脅威と位置付けられるまでの影響力をもつに至っている。
中国は昨年一〇月中旬、第二〇回中国共産党大会を開催し、従来の二期までという慣例を破り、習近平の総書記三期目続投を確認した。党最高指導部には習近平腹心を多数起用し、習近平一強体制を固めた。また、米帝バイデンが主張する「民主主義と専制主義との戦い」に対する回答として、「中国式現代化」を強調し、「中国式現代化」を強調し、スターリン主義（一党独裁の継続）を「独自の現代化」と言い直し正当化したのだ。さらに、二〇三五年までに「社会主義現代化の基本的実現」を、二〇五〇年には中国を「社会主義現代化強国」にするという中・長期目標を設定した。これは、軍事力を含む総合的な国力で米帝を追い抜き、中国の世界的覇権を確立しようとするものだ。実際に中国のGDPは二〇三〇年代に米帝を追い抜くことが確実視されている。また、中国の資本主義化の進展は、当然にも投機資本の受け入れを加速してきた。



ゼロコロナに対する怒りと習近平体制への中国人民の批判が噴出（11月28日）

過剰な不動産投機はこれまでの中国の経済成長を牽引してきたが、その「不動産バブル」がはじけた現在、膨大な不良債権となつて中国経済停滞の主要因となつてい

米国内の分断と対立

米国内では、コロナ禍やウクライナ戦争による資源価格の高騰で、前年比8%強にまで悪化した歴史的物価高が続いており、米労働者人民の困窮化が進んでいる。米人民の怒りは民主

（二二年六月）ことに対する女性、若年層の怒りがあ

国内あるいは同盟国内で完結するサプライチェーンの再構築に向けて動き始めた。資本の利害と国家戦略との一致を基準に据え、その観点から資本の再生産活動を管理・統制する「経済安全保障」戦略への転換である。それは、米中が世界的シェアの獲得をめぐる競争の激化を半導体、量子科学、宇宙などの戦略的産業の育成・生産などに対して、「国益」という基準をもって管理・統制を課すものだ。保護主義の正当化であり、経済領域での対中包囲網の構築を企図したものだ。

一世紀の地政学の震源地となる」と述べている。そして、この地域における同盟国として、「オーストラリア、日本、韓国、フィリピン、タイ」を挙げて、それら諸国への強固な関与と、その具

グローバリゼーションの
破綻

一九九〇年を前後する東欧・ソ連圏の解体によって、米帝を中心とした帝国主義諸列強は「共産主義の敗北」と「自由主義（資本主義）の勝利」を喧伝した。この戦後「冷戦構造」崩壊を契機に、帝国主義ブルジョアジーは、新自由主義的経済政策を「グローバル・スタンダード」と言いなし、市場経済化の徹底、資本輸出の規制撤廃を推し進め

このコロナ禍中において、米中の覇権をめぐる対立もまた激化した。さらに、ロシアによるウクライナ侵略の勃発によって、国境を越えた「自由な資本輸出」を基調とする新自由主義グローバル化の一時代はついに終焉を迎えたのだ。

対中国、対共和国、対インドといった、この間のアジア太平洋地域、とりわけ東アジアでの政治・軍事的緊張の高まりは、衰退する米帝の巻き返しをかけたインド太平洋戦略を主要因として生み出されてきたものだ。だが、米帝も必死であるがゆえに、緊張は今後も不断に高まり続けていかなるを得ない。

米帝・バイデンの中国包囲網形成
東アジアでの戦争危機の拡大

昨年一〇月二日、米帝バイデン政権は、初の「国家安全保障戦略（NSS）」を公表した。米帝は、この中で、冷戦終結後の時代が「決定的に終わった」と宣言し、「次の時代を形成する大國間の競争が始まっている」との時代認識を示した。その上で、中国を「国際秩序を塗り替える意図を持ち、それ

したがって、われわれ日帝下共産主義者の最重要の任務は、プロレタリア国際主義の旗をかかげ、解放を求めて闘う全世界、とりわけアジア太平洋各国・地域の労働者階級人民との団結・連帯の一層の促進によ

12・4 大阪

関電包囲全国集会に九〇〇人が結集

老朽原発うごかすな！の声響く

二月四日、関西電力本社前には「老朽原発うごかすな！」の声を包囲された。この日、「老朽原発うごかすな！実行委員会」の主催で、関西電力本社前には約九〇〇人が結集した。関電は、四〇年超えの老朽原発である美浜原発三号機の再稼働を強行し、さらに来年には同じく四〇年超えの高浜一、二号機の再稼働を計画している。このような動きに抗議し、老朽原発の再稼働阻止から全原発の停止・廃炉の展望を切り拓くべく、この日の集会は開催された。

関西電力本社前には、約九〇〇人が結集し、美浜原発三号機など四〇年超えの老朽原発の一日も早い停止と廃炉を実現しようと呼びかけた。井戸謙一弁護士は、自らが取り組んでいる美浜三号機の運転差し止め仮処分訴訟の経過と意義を説明した。

さらに、「老朽原発との闘い」として、美浜原発（福井県）、高浜原発（福井県）、東



関電に対する抗議のシュプレヒコールが行われた（12月4日）

海第三原発（茨城県）、川内原発（鹿児島県）のそれぞれ地元で反対運動を取り組んでいる方々からの発言が行われた。この日の集会にはまた、これらの地域だけでなく、福島、東京、愛媛などで反原発運動に取り組む人々も駆けつけた。

関電に対する抗議のシュプレヒコールを挟みながら、集会は続いた。原発賠償訴訟に取り組む人々、関西各地の反原発運動、労働運動の立場からの発言など、様々な角度での発言が行われた。

関電本社前での集会終了後、参加者はうづつ公園に移動し、そこからさらに御堂筋をなんばに向かってデモ



反原発を訴え御堂筋をデモ行進（12月4日）

三面から

高まる人民の怒りの中で、岸田政権は昨年一〇月の臨時国会で、物価高対策を重要政策として位置づけたのだった。

岸田政権は「分配」を言いながら、これまでやってきたことは、中途半端なばらまき政策ではない。困窮化の根本的原因は、三〇年間にわたる賃金の停滞、労働者の賃金下落、最低賃金の再引き上げなど、賃金上昇のための政策を取らず、「資産所得倍増」なるものを打ち出したのだ。これは個人資産の貯蓄から投資、投機への転換を促すものであり、一部の富裕層や資本家らの資産を増やすための政策だ。

岸田の「資産所得倍増」政策

とは、あえて「所得倍増」との意図的な混同を狙った、労働者人民を欺くための悪質な詐欺的な手法なのではないか。労働者人民をなめ切った岸田政権を一刻も早く打倒しなければならぬ。

岸田政権はまた、気候変動対策としての脱炭素や、ロシアのウクライナ侵略を利用した「エネルギー危機」による電力逼迫を理由に、四〇年超えの老朽原発の再稼働、最長六〇年の規制撤廃、建設中の新原発の稼働・建設などの原発回帰政策を次々と打ち出している。本年には福島第一原発の高濃度汚染水の海洋放出も目論まれている。福島原発事故の被害を促すものであり、一部の富裕層や資本家らの資産を増やすための政策だ。

岸田の「資産所得倍増」政策

年九月には、沖縄人民の反基地運動つづきを主要な目的とした「土地規制法」が全面施行された。

日米帝国主義は、「台湾有事」への自衛隊参戦を想定した日米共同作戦計画の策定と、島嶼奪還や弾道ミサイル対処のための日米大規模合同演習「オリエンタル・シールド22（八月）、琉球弧全体を使った「ギン・ソール23」（十一月）を、相次ぎ実施した。これら演習には、沖縄、米軍の国境離島警備隊と海上保安庁第一管区巡視船数隻も参加した。二一年には陸自一〇万人動員の大演習（陸演）が行われ、民間輸送会社や鉄道会社、港湾などが大量の兵站や兵員の輸送に動員された。これは、「戦時体制」への全社会的な動員訓練であった。

そして同時に、韓国で尹錥悦右派政権が発足して以降、米韓、日米韓の合同軍事演習が相次いで強行されており、朝鮮半島の軍事的緊張が高まっている。

昨年八月、米韓は二〇一八年に廃止された大規模米韓合同軍事演習「支那のチンフリーダムシールド」を四年ぶりに復活させ、共和国敵視政策への回帰を鮮明にした。九月には原子力空母ロナルド・レーガンなど米海軍の空母打撃群が釜山港に入港し、韓国海軍との合同海上演習を実施した。これと並行して日米韓合同の対潜水艦作戦の共同訓練や、イージス艦による三軍合同演習も実施された。

日米韓の合同軍事演習はその後、米韓合同軍事演習「ピジョン・ストーム」が実施された。米海兵隊のステルス戦闘機F35BやB1B戦略爆撃機など、米韓両軍の戦力約二四〇機が参加した

戦争と改憲攻撃強める 岸田政権打倒

日帝・岸田政権は、「安倍政治」を継承し、米帝・バイデン政権の「インド太平洋戦略」と一体となって、改憲と大軍拡、戦争体制構築の道を突進している。

岸田は、昨年一〇月、国会冒頭の所信表明演説において、「ウクライナは明日の東アジアかもしれない」「日米同盟の強化がますます重要」と語り、「反撃能力（＝敵基地攻撃能力）保有の本格的検討や、軍事力の五年以内の抜本的強化」「軍事費のGDP比2%への倍増、辺野古新基地建設の推進など大軍拡方針を表明した。

岸田はウクライナ侵略戦争という現実を進行する殺りくを全面的に利用し、段階を画する改憲と大軍拡路線へと踏み込んだのだ。昨

安全保障戦略「防衛計画の大綱」「中期防衛力整備計画（中期防）」の「防衛三文書」の改定を強行した。自衛隊の「敵基地攻撃能力」保有や、軍事費倍増の大軍拡予算編成方針が正式に盛り込まれ、日本の軍事政策の抜本的転換が強行された。

すでに琉球弧から台湾、フィリピンを結ぶ「第一列島線」に沿って、対中国ミサイル包囲網の構築が進められている。宮古島、与那国島、石垣島、沖縄島などに自衛隊のミサイル基地などが続々と作られ、自衛隊員が配備されている。戦争になれば、軍事基地は真っ先に攻撃の目標となることは必至であり、岸田政権は、「本土防衛のための（捨て石）として琉球弧を再び戦場化しようとしているのだ。昨

大規模演習であった。

このような朝鮮半島での大規模演習の連続的な強行は、共和国への戦争挑発そのものだ。だからこそ共和国は対抗のために核兵器の開発や大陸間弾道ミサイルの発射実験を繰り返しているのだ。日本政府はこれら日米韓の戦争挑発の実態に揺れず、共和国のミサイル発射実験のみを取り出し、軍事的脅威として盛んに喧伝して、大軍拡の口実としているのだ。

朝鮮半島での軍事的緊張関係の根底には、朝鮮戦争がいまだ休戦状態のままという現実がある。韓国民衆の「もうすぐ革命」と、その後の文在寅（ムンジェイ）政権誕生（二〇一七年）

によって、南北首脳会談（一八年）、史上初の米朝首脳会談が実現し、軍事緊張緩和と朝鮮戦争終戦、平和協定の締結の展望が拓かれた。だが、この流れは、米帝の路線転換によって中断されたままとなっている。

これを打開し、朝鮮戦争の真の平和実現の展望を引き寄せる力は、自主的平和統一をめざす南北在日朝鮮人民の闘いと、日韓、日朝の労働者人民の団結・連帯による他ない。朝鮮半島の軍事的緊張を高める日米帝国主義と韓国・尹錥悦政権の日本韓三角軍事同盟強化を許さず、朝鮮・アジア人民と共に反戦、反基地、反安保闘争を闘おう。

われわれに求められているのは、このような時代の労働者階級人民の解放を実現する共産主義を今こそ復権させていくことだ。

（統一委員会）は、現実の労働者階級人民の闘いと共にあり続け、ブルジョアジーの階級支配、差別排外主義煽動による分断支配を打破する闘いを全力で推進する。国境を越えた労働者人民の団結を促進し、全人民の解放を実現する共産主義運動の前進に向け、真一文字に突き進んでいく。

同志、友人の皆さん、共に二〇二三年階級闘争の最前線に闘いぬこう。

分断と対立を打ち破り 共産主義運動の前進を

支配階級・ブルジョアジーの側から、新自由主義グローバリゼーションの終焉が宣言された今日、世界的な支配秩序の再編をめぐって、帝国主義と諸大國間の対立と競合が激化している。だが、帝国主義列強による軍事同盟強化と経済安全保障が行き着く先は、排外主義を煽ることで国民を統合し、「国益」のために戦争をも厭わないという分断と対立の構造の先鋭化しか結果しない。

新自由主義グローバリゼーションがもたらしたものは、1%の富裕層と99%の貧困層という極端な格差拡大であり、侵略反革命戦争の災禍であり、地球温暖化・気候変動の深刻化であった。すでに世界中の多くの人びとが、これまで通りのやり方では人類の維持が不可能になってい

労働者階級人民の闘う指針

戦旗

定期購読しよう！

年間購読料（送料共）

開封6,300円 密封7,000円

※権力弾圧からの防衛のため、定期購読のお申し込みは、封書に住所、氏名を記載した紙を入れ、下記宛てまでお願いします。

〒120-0005 足立区綾瀬7-2-11

戦旗社

2023年

共闘団体からのアピール

資本主義の犠牲ではなく 民衆が主人公の共産主義へ

共産主義者同盟首都圏委員会 幾瀬仁弘

二〇二三年の年初に、『戦旗』読者のみなさんに連帯のあいさつを送ります。

ロシアのウクライナ侵攻によって始まった戦争は、「停戦」という声がほぼ聞かれないまま依然として続いています。その間双方の国で多くの命が失われまじた。世界の人々は、現代の世界に在りて自分にも降りかかり得る事態としてこれを見つめているのではないかと思います。

「資本主義の終焉」とい

者大衆は資本主義の延命のために命を奪われてしまっている状況にあるのです。こうした趨勢に日帝岸田政権も遅れまいとし、「台湾有事」を声高に叫び、危機を煽り、敵基地攻撃能力の保有を画策しています。私たちが

戦争・改憲を許さない！

G7広島サミット粉砕現地闘争を

闘おう

統一共産同盟

統一委員会の皆さん、友人の皆さん、今年は反戦・改憲阻止！の階級決戦を共に闘いぬきましょう。米日帝国主義はアジア・太平洋における覇権確立を狙い、「台湾有事」一対中国戦争危機を煽り、朝鮮民主主義人民共和国に対する軍事挑発を強めています。岸田政権が打ち出す国家安全保障戦略は、バイデン米政権の対中国包囲・対抗を基軸にすえた世界戦略と緊密に

二〇二三年の新年にあたって 沖縄の再戦場化阻止へ大きな流れを

労働者共産党 松平直彦

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始

二〇二三年は、沖縄の再戦場化の危険が現実のものとなりかねない年となるだろう。すでにアメリカは、師団・軍団規模の米日合同軍事演習を連日展開している。遠征前進基地作戦(EABO)での臨時陣地構築や、台湾・公道の使用演習も始



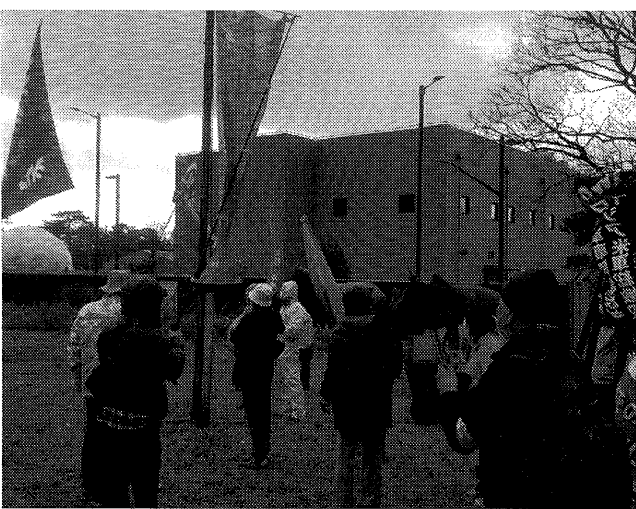
米軍基地いらんちゃフェスタ 2022 (12月11日)

十二月一日、京丹後市 峰山の丹後文化会館で「米軍基地いらんちゃフェスタ 2022」が開催された。米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会は、雨の降る中、米軍と自衛隊の基地前での抗議行動を行った。「米軍Xバンドレーダー基地を撤去せよ」、「人身事故の隠蔽糾弾！」、「自衛隊は敵基地攻撃能力を持つな！」などのシュプレ

二月一日、京丹後市 峰山の丹後文化会館で「米軍基地いらんちゃフェスタ 2022」が開催された。米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会は、雨の降る中、米軍と自衛隊の基地前での抗議行動を行った。「米軍Xバンドレーダー基地を撤去せよ」、「人身事故の隠蔽糾弾！」、「自衛隊は敵基地攻撃能力を持つな！」などのシュプレ



米軍と自衛隊基地前で抗議行動 (12月11日)



基地周辺でのフィールドワーク (12月11日)

組織された。それ以降、選挙による政権交代などで安保法制の廃止と改憲の阻止を目指す路線が主軸となった。しかしこの間、国会での「ウクライナ決議」に象徴される帝国主義的排外主義の大波に呑み込まれて、野党共闘は弱体化し右への分岐を進行させてきた。日本(ヤマト)の民衆運動は、新しい状況に対応していかなければならない。

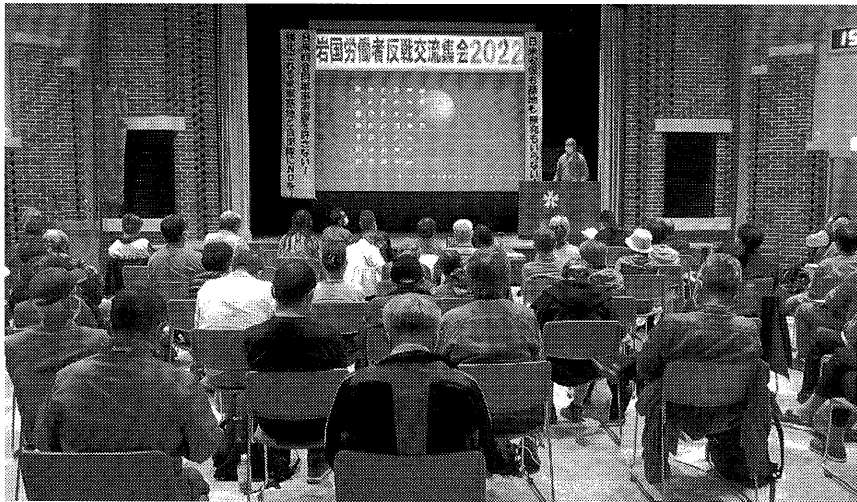
戦争とナショナリズムに抗して

(反戦・反貧困・反差別共同行動) 新開純也

「社会主義」圏が崩壊した時、もはや国家間戦争はなくなり、あるのはテロと戦争であるといわれた一時期があった。だが、不均等発展の法則によって、とりわけリーマンショック以降の中国を先頭とする途上国の発展によって多極化の時代に突入した。アメリカは中国、ロシアの資本主義化と「民主化」に期待した一時期から封じ込め、デカップリングへと転換した。オバマ後期からである。欧州ではウクライナまでのNATOの東方拡大を画策し、資源を基盤として復興したロシアとの勢力圏争いとなり、ウクライナ戦争という国家間戦争に発展した。他方アジアでは台頭する中国に対して経済戦争を仕掛け、さらに台湾をめぐる緊張関係が生み出されている。こうして世界的にナショナリズムが台頭し戦争の危機が煽られ各国の軍拡が一挙に開始されている。

日本でも岸田政権によって敵基地攻撃が防衛三文書に改定によって正当化され軍事費四三兆円(五年間)が予算化されている。戦前日本のアナロジーでいえば一九三〇年代の軍縮が浜口、井

全国から労働者・市民結集



全国から労働組合が結集し闘いの報告を行った (11月26日)

岩国・労働者反戦交流集会

11・26

全国の労働運動の報告

「希望は労働組合」

一月二十六日岩国市民文化会館には全国各地から労働者が結集した。当日の集会には一三二名の労働者が賛同した。この中には、コロナ禍の中参加を控えた人や三里塚の市東さんの土地を守る集会等に参加するため岩国まで来られない人たちもいた。

集会基調報告は図画を交えながら行われた。コロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻、円安によって物価が高が続く中、「希望は労働組合だ。自分たちの権利を守る闘いと反戦、反差別、地域を守る闘いがつながっている」と知っている。そして、それは、自国に帰りたいけれども帰れず、働きたくても働けず、私たちが岩国に集って

「希望は労働組合」を日常的に取り組むユニオンたんばの武藤さんから、闘いの報告があった。そして、「コロナ禍が始まった頃は、自国に帰りたいけれども帰れず、働きたくても働けず、私たちが岩国に集って

「希望は労働組合」を日常的に取り組むユニオンたんばの武藤さんから、闘いの報告があった。そして、「コロナ禍が始まった頃は、自国に帰りたいけれども帰れず、働きたくても働けず、私たちが岩国に集って

「希望は労働組合」を日常的に取り組むユニオンたんばの武藤さんから、闘いの報告があった。そして、「コロナ禍が始まった頃は、自国に帰りたいけれども帰れず、働きたくても働けず、私たちが岩国に集って

「希望は労働組合」を日常的に取り組むユニオンたんばの武藤さんから、闘いの報告があった。そして、「コロナ禍が始まった頃は、自国に帰りたいけれども帰れず、働きたくても働けず、私たちが岩国に集って

岩国国際連帯集会

11・26

岩国、琉球弧、全国の反戦反基地闘争の報告

一月二十六日夕刻、岩国・労働者反戦交流集会に引き続き、岩国国際連帯集会が開かれた。

はじめにアジア共同行動(AWC)日本連絡会議全労連事務局長が主催者挨拶を行った。以下のような要旨だった。

「昨年(2022)岩国行動では、宮古島で自衛隊のミサイル弾薬搬入強行阻止行

行場で来年から行われようとしている。危険なオスプレイが首都圏の頭上を飛行し、騒音に悩まされている。反対の声を挙げていきたい。米軍の飛行訓練も激しい騒音をまき散らしながら行われていく。今岸田政権は軍事費の増大を断行しようとしている。増やすべきは軍事費でなく、賃金であり、福祉予算である。今こそ労働者として声を上げていきたい」と訴えた。労働者の反戦・反基地の闘いを相互に交流し、連帯する事もこの岩国労働者交流集会の大切な意義である。

続いて会場からの発言では、関西から参加した労働者から、「差別と闘うことが労働者の連帯と団結を更に広げる。差別排外主義と闘う事と労働現場での闘いは労働運動の車の両輪である」と自身の闘いから得た確信を語るものから始まった。関西生コン支部の労働者からは、カンパのおれと最後の闘い決意の表明があった。ユニオン九州からは、職場での前衛を折ら

「台湾有事」を煽動し、軍事大国化の道を進んでいる。全国で日米軍が一体化した軍事演習が強化されている。軍事基地強化に反対する闘いを進めていく。来月、G7広島サミット開催が予定されている。帝國的な主義が自らの利益を優先し、反対する闘いを共に進めていく。

第二には、日本政府による



広島、岩国、奄美、沖縄、韓国から反基地闘争の報告 (11月26日)

こと、洋上基地艦「ミゲルキース」など米軍大型艦船の入港が常態化しており、基地機能強化が進んでいることを報告した。また、岩国住民は、年内にも第二次岩国爆音訴訟を提起し、闘いを続けていくことを明らかにした。

鹿兒島県護国平和フォーラム事務局長の磨島昭広さんは、「奄美ミサイル・弾薬庫」について報告した。奄美での配備状況や基地機能の拡大強化の実態を、現地で撮影した画像を使って説明した。

辺野古カヌー隊の金治明さんは、辺野古新基地建設阻止の粘り強い闘いの現状と課題について報告した。「若狭の原発を考える会」木原壯志さんからの連帯のメッセージが、参加した同会の仲間から読み上げられた。

アジア共同行動関西青年部(AWCユニ)は、出入国管理拒否に反対する取り組み、安倍内閣反対闘争、トランプ大統領選挙反対闘争、デモなど、日帝の戦争国家化に伴う差別排外主義激化と対決する実践を中心に報告を行った。

部解放運動関係者は、鳥取ループ・示現舎による、熊本県内の部解放を標榜した、ネット上での連続した「晒し行為」(差別サイト「部落探訪」への掲載)を批判した。さらに、石川さんの無実を証明すべく東京高裁に鑑定人尋問、事実調べを行なわせ、第三次再審闘争に勝利するために共に全力で闘おうと呼びかけた。

最後に司会が、集会のまとめで、翌日の岩国基地に向けたデモの行動提起を行った。集会は終了した。

2022岩国行動成功！！

11 • 27

反戦反基地訴え集会・デモ

岩国基地ゲート前で抗議

2022岩国行動の二日目、昼からの岩国市役所前での集会と岩国基地に向けてデモ行進が聞かれた。一月下旬としては暑いから半に行われた。「守ろう愛宕山」の歌を全員で歌ってから、後半ではAWCユース、大阪、北九州ユニオンの仲間からの発言を受けた。

組合での取り組みを報告するとともに、岸田政権の下で進む戦争体制の強化を批判し、岩国の闘いと結びつけていく闘いを訴えた。

いの晴天の下、全国から結集した仲間が元氣よく集会とデモを貫徹し、2022岩国行動を締めくくった。

「デモ出発前集会では、司会を「住民投票を力にする会」の方とAWC九州・山口の方が行った。集会では、地元岩国市議の方、東京から元高校教員の方、朝鮮総連山口県本部の方、山口労連・県教組の方の発言が前

松田さんは、岩国基地が、空母艦載機と海兵隊の航空部隊という二つの攻撃部隊が常駐し、さらに大型艦船も接岸できる港湾施設も備えた基地として大きく変貌してきた状況を説明し、平和な地域を目指し、岸田政権を糾弾して闘っていきたいと発言された。

各地から結集した仲間

集会後、岩国基地に向けたデモ行進に出発した。岩国市内を歩き、「岩国基地はいらない」「米軍は出ていけ」とシュプレヒコールを上げ、「守ろう愛宕山」を歌うなどして、岩国市民に訴えた。

基地正門前では、英語のシュプレヒコールも行い、直接岩国基地に対する弾劾と基地撤去に向けたAWC

運動の闘いをアピールし
発言をAWC日本連共同体
表が行い、二日間にはた
た2022岩国行動の総括

デモ終了後は、まとめの

岩国基地フィルム
航空写真を用い
岩国基地の実態

11・27

岩国行動二日目となる一
月二七日、恒例の岩国基
地フィルムドワーク（以下、
FW）を行った。約二五名が
参加した。今回のFWは、現
地の人の案内は無く、スタ
ッフの案内で行った。配慮
したことは、前日に行われ
た岩国国際連帯集会での田
村順玄さん、新田秀樹さん
による報告の内容と結びつ
けること、航空写真を活
用することである。

つていた。
今回は、飛行が無く、静か
な状態の基地を見学するこ
ととなった。艦載機エリア
には戦闘機の姿が少なく閑
散としていた。一通り施設
の概要を説明し、航空写真
を用いて、目の前に広がる
エリアの大半が滑走路の沖
合移設を名目とした拡張工
事のために埋め立てられた
ものであることを説明し

11 • 27

岩国基地フィールドワーク

航空写真を用いて

岩国基地の実態を解説

岩国行動二目となる一月二十七日、恒例の岩国基地フィールドワーク（以下、F.W）を行った。約三十五名が参加した。今回のF.Wは、現に戦闘機の姿が少なく閑々であった。

今回は、飛行が無く、静かな状態の基地を見学することとなった。艦載機エリアには戦闘機の姿が少なく閑々であった。

基地との間には軍専用の橋「フリーダムブリッジ」が架けられている。米軍への厚遇ぶりを感ずることが出来る。



ない。しかし、船が停泊しており、クレーンが移動する様子を見ることが出来た。堤防からは基地内の様子を見ることは出来ないの
で、ここでも航空写真を用いて、現在地と基地の位置関係、基地内の施設の説明を行った。現在、一万バレルの燃料タンク三基を五万バレルのタンク三基に置き換える計画が発表されている。また、タンカーが接岸できるように港湾の改修も行われようとしている。タンクは門前川沿いにも設置されているようなので、工事が始まれば、その様子を監視することが出来るかもしれない。

最後に愛宕山にある絆スタジアムの駐車場に移動した。国立病院機構岩国医療センター、消防署、ふくろう公園、絆スタジアム、陸上競技場等が整備された一帯は、かつて愛宕山であり、岩国基地の滑走路沖合移設のための埋め立て土砂として崩されたことを説明した。田村さんの報告にあった、緊急車両の米軍住宅エリア通過訓練について補足説明を行った。愛宕山米軍住宅地(愛宕ヒルズ)正門前を通過してFWを終えた。

今回のFWを通じて、航空写真を活用することの利点を確認することが出来た。今後は新旧の航空写真を用いることで、基地の拡張の流れについても可視化していきたい。

(犬飼現八)

地域個体群に指定する二本シカがいる。防衛省は基地の周りにフェンスを巡らせるというが、ほとんどの森がなくなり、残った森も分断されるため、マゲシカが生きていく環境は破壊される。

防衛省は馬毛島に滑走路だけでなく弾薬庫も作るうとしていた。CNNは馬毛島の基地について、馬毛島は使い勝手が良く将来米軍の不沈空母となる可能性がある」と報道している。

米軍は馬毛島でFCLP（陸上空母離着陸訓練）を行おうとしている。当初、午前一〇時から深夜三時まで行う計画としていたが、最近になり午後一〇時から午前七時の間にも計画していることが分かった。訓練空域には大隅半島の南端が含まれる。

はじめに、滑走路を北側から見渡せる、みすみクリンセンターへ移動。昨年は米海軍の強襲揚陸艦「アメリカ」が寄港しており、滑走路の北側からもその巨体を目にする事が出来た。

また、日曜日にもかかわらずF35Bが飛来し着陸を行うように見える。米軍住宅と

続いて、門前町米軍住宅エリアに移動。フェンス越しに米軍住宅の説明を行った。参加者より、電柱が見当たらないが電気はどこから来ているのか、などの質問があった。米軍住宅では電線の地下埋設が行われているようである。米軍住宅と

実態 訪問の報告



など映像を使った報告が行われた
(11月27日)

講演の最後に「磨島さんは「子どもや孫に『負の遺産』を残さない」「馬毛島の問題は鹿児島だけの問題ではない」「自衛隊員を戦場に送らない」「防衛費の拡大より社会保障。拡充とコロナ対策強化を政府に要求」「正確な情報を共有して拡散して」

岩国基地滑走路を北側から見渡せる場所で、説明を受ける
(11月27日)

11・27 三里塚

授權決定弾劾 強制執行実力阻止

市東さんの農地を守ろう

天神峰で集会・デモ

一月二七日、天神峰の市東さん宅中庭において、

「強制執行実力阻止！市東さんの農地を守ろう」天神峰現地闘争が三塚山連合空港反対同盟の主権で取り組まれた。全国から労働者人民二八〇名が結集した。

千葉地裁民事第四部、中村裁判官は一月二二日付で、市東孝雄さんと反対同盟に対して、強制執行の「授權決定」を通告してきた。反対同盟と支援連は、たまたに強制執行実力阻止態勢を強化した。二四時間の泊まり込み、座り込みで農地を守り抜く闘いに突入している。

一三時、婦人行動隊の木内敦子さんの司会で集いが行われた。市東孝雄さんが発言に立ち、市東さんは、「一月二二日から、二四時間の座り込みと泊まり込みを始め、みなさんの力と団結で、この闘いをとどめていこう。一人でも何きに着手し、翌日にはB滑走路の北延伸の工事に着手する」という、空港拡張工事で市東さんの農地強奪と一体の攻撃であることを徹底弾劾した。市東さんの決意と、三里塚勢力が築いてきた強制執行実力阻止態勢の地平をもって、共に最後まで闘い抜く決意を明らかにした。さらに、同日2022岩国行動を闘っており、三里塚闘争と反戦反基地闘争を一体の闘いとして貫いていくことを明らかにした。

全国から寄せられた機動隊、裁判所が市東さん、反対同盟に手渡された。

またもと行動提起に、決戦本部の太郎良さんが立つた。「総力をあげて市東さんの農地を守るために、この地に結集し、機動隊、裁判所



「農地を守り抜くぞ」成田空港に向けてデモ行進 (11月27日)

11・28 千葉

「授權決定」を出した 千葉地裁に怒りのデモ

一月二八日、市東さんの耕作権裁判を前に、三里塚連合空港反対同盟の呼びかけで集会と千葉地裁デモが取り組まれた。

市東孝雄さんは、三塚山連合空港反対同盟の呼びかけで集会と千葉地裁デモが取り組まれた。市東孝雄さんは、三塚山連合空港反対同盟の呼びかけで集会と千葉地裁デモが取り組まれた。

11・28 千葉

耕作権裁判闘争 空港会社のでたらめな主張を徹底追及



市東さんの農地強制執行阻止を訴え千葉市内をデモ (11月28日)

前八二日の裁判において、本田裁判官は「一九七一年の大木よねさんに対する強制執行と同じ攻撃、生活のすべてを奪ってしまう攻撃に、空港会社が着手して弾劾し

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。

た。三里塚闘争は、農業を営み自然を守っている農民の生活を奪うことに反対して闘い続けると宣言した。この日の耕作権裁判はすでに一六年前も続いている。原告である成田空港会社側が、市東さんの農地を証拠を隠し、あるいは証拠がでたらめだったためだ。



空港会社と「授權決定」を出した裁判所を徹底弾劾したことを確認 (11月28日)

闘争日程

○労働組合つばしの大弾圧を許さない 二〇三三元旦行動

日時：1月1日(日) 午前10時から

場所：大阪府警本部前

主催：労働組合つばしの大弾圧を許さない実行委員会

○三里塚新年デモ・団結旗開き

日時：1月8日(日) 12時30分

場所：市東さんの南台の畑集合

主催：三里塚山連合空港反対同盟

○反戦・改憲阻止！ 国際連帯 1・22集会

日時：1月22日(日) 13時30分

場所：渋谷区労働福祉会館

主催：有事立法・改憲阻止 反帝国際連帯 反戦闘争実行委員会